

# その「物語」の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.079

## a taste of Ya'ssy

### 田中 康夫

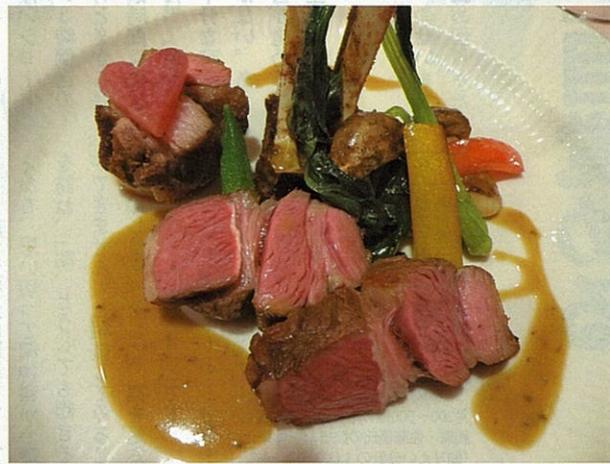


たなかやすお ● '56年生まれ。衆議院議員、新党日本代表、作家。  
'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。  
'09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選。[公式ブログ] [www.nippon-dream.com/](http://www.nippon-dream.com/)



## 「国境で区切られた愛など愛ではない」

### 今週の逸品



名古屋コーチン・モモ肉の網焼き  
マンゴーとトマトのトロピカルソース 3500円

代官山と恵比寿の中間に位置する。石畳の階段を上ると、手入れの行き届いた花壇の先に、ブルゴーニュの料理店を想起させる趣のラブレールが登場する。結婚披露宴でも人気を集めるが、その料理こそは侮れぬ領域に達する。4800円、6500円、8500円の晚餐。午餐は1995円、3990円、4725円、6300円。更に予約不可なれど週替わり午餐も前菜・主菜・デザート2品・珈琲で998円の驚歎。店内へも犬同伴可の料理店。

[ラブレール] 東京都渋谷区恵比寿西1-3-13 グリーンヒル代官山2F ☎03-3780-3090  
営業12:00~15:00(LO)、18:00~22:00(LO) 水曜定休 禁煙 <http://www.rabelais-sub.jp/>

illustration by Hajime Anzai

『愛国と愛国と売国』と題する著書の中で、鈴木邦男氏は看破しています。「外国人が母国に抱く愛国心を理解し、その上で日本を愛する。自分の国が全て、日本だけが素晴らしいという考えは、思い上がった自国愛に過ぎません。ただの排外主義です」と。

「愛国」なる「固定観念」に拘泥する向きは、口角泡を飛ばして反論するかも知れません。「一水会」最高顧問の肩書が廃る、と。では、次の引用は誰の発言でしょうか? 「愛国という言葉は嫌い

だ。愛は無制限であり、国境で区切られた愛など愛ではない。豈図らんや、三島由紀夫氏です。昭和43年11月9日68年1月8日付の新聞夕刊に「愛国心一官製のいやなことば」を寄稿しています。「実は私は『愛国心』といふ言葉があまり好きではない。何となく『愛妻家』といふ言葉に似た、背中のソツとするやうな感じをおぼえる。…この言葉には官製のほひがある。また、言葉としての由緒ややさしさが無い。どことなく押しつけがましい。…日本人の情緒

的表現の最高のものは『恋』であつて、『愛』ではない。もしキリスト教的な愛であるならば、その愛は無条件無限定でなければならぬ。従つて、『人類愛』といふのなら多少筋が通るが、『愛国心』といふのは筋が通らない。なぜなら愛国心とは、国境を以て閉ざされた愛だからである」  
蓋し至言です。「朝日新聞」への寄稿だったから三島も「配慮」したのだ、と頓珍漢な悪態を吐く向きも現れるかも知れませんが、愛国心は日本人だけに許された情念



ではないのです。「愛国心だ、愛国心だ」と殊更に強調される時には、何か邪な意図がある場合が多い。戦前の政府は、愛国という、誰も抵抗出来ない言葉でその政策を正当化、美化し、人々を戦争に駆り立てた」と喝破する亀井静香氏の警句も含め、近頃の日本に横溢する「愛国心」は、愛郷心・愛民心から対独抵抗運動IIレジスタンスを展開した第二次世界大戦時のフランスとは、彼我の違いが明々白々です。  
温泉保養地として知られるフランス中南部のビシーに誕生したナチス・ドイツの傀儡政権を打倒すべく、シャルル・ド・ゴールは1940年、亡命先のイギリスに亡命政府「自由フランス」を結成。それはフランス共産党をも巻き込んだ「ユナイテッド・インディヴィジュアルズ」な運動でした。  
自国至上主義の国に思えて、実は端唄すべからざる深奥を極めるのがフランスです。同様に、栄養価の高い料理に思えて、実は減量時に最も相応しいのがフランス料理。中国料理や日本料理よりも、遙かに糖質が少少ないのです。  
既存の権威を風刺した「ガルガンチュアとパンタグリユエル」の作者フランソワ・ラブレールに因む「ラブレール」は、午餐も晚餐も費用対効果の高い、花壇に囲まれた逸軒。ブルゴーニュの料理店に迷い込んだ感覚に陥るでしょう。